
その正体

火野恭子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

その正体

【Nコード】

N3097I

【作者名】

火野恭子

【あらすじ】

棄てられない、男への手紙。

もう恋してはいません。だけど棄てられないのは、ただの同情ではないんですー

哀しむ貴方を胸に描くと、
わたくしは居てもたってもいられなくなります。

駆け寄って抱き締めて、その心癒えるまで傍に居たいと願います。
幸せな貴方を想像すると、「ああ、良かった」等と思います。

だけど、その幸せの中に、

わたくしが関与していなくても良いと思うのです。今は。

これは何なのでしょう。

ただの義務感ではありません。

そもそも義務などという言葉は嫌いです。

「お前が居ないと死んでしまう」等という子供じみた言葉で、
貴方は何度もわたくしを思いとどまらせるのです。

確かに、貴方の人生には、生き甲斐というものが見当たりません。

貴方はただ生活の為に愛して居ない仕事をし、

自分の存在価値や、生き甲斐の全てを、

わたくしの中に求めているからです。

今は、わたくしだけが、貴方の光なのです。

わたくしが居なくなつた後の貴方を想像すると、

わたくしは気が狂いそうな程に辛くなります。

全てどうでも良くなつたように、自暴自棄に暮らし、

わたくしを想い出してきつとあのベッドで泣くのです。

代えのきかないものを失つて、胸を抑えて泣くのです。

もし、その状態で、貴方がわたくしに泣きついたら、

きつと、わたくしはどこに居ても帰ってしまうでしょう。

こんなにも、自分を必要としている人を、

どうしてわたくしは愛せなくなつてしまったのでしょうか。

「貴方と付き合い続けるだけの愛情が、現在無い」

そう宣告し、別れを切り出したわたくしを、

貴方は100%は信じてない。

わたくしの戯言の一種だと、半信半疑でしょうか。いえ、危機感を持っている。

恋人同士では無いと、干渉を止め、抱いたりはしないけれど、気が緩んだ時に磁石の様に引き合っけてキスをする。

二人で少し、幸福になる。

わたくしは幸福と感じると同時に、どうしようもない気持ちになる。

貴方はどこかで、わたくしたちが離れられるはずが無いと、そう思っけて、思い込んでいるような気がします。

それ程に、何度いさかいを起こしても、

何度、絶望するような二人の間の壁を垣間見ても、

本当にもうダメだと思っけて、離れてみても、

わたくしたちは、どうしてかまた一緒になっけてしまっけているから。

わたくしは、貴方を愛しているのでしょうか？

いえ、わたくしの持つ愛というものは、かけ離れている。

そして、ハタと気付くのです。

わたくしには、「自分にとっけて必要な人」というのが居ないのだな、と。

わたくしは、

わたくしが貴方を愛して居なくても、必要じゃなくても

わたくしを必要とする貴方が居るなら、

それで良いと思っけているフシもあるのです。

だっけど、わたくし自身が、必要だと感じる相手が居ないのです。

独りで生きてゆっけてしまっけてわたくしは、

貴方の様に、わたくしが居ないと生きてゆっけないと云っけて、

そっけという人の傍に、居たいと望むのでっけようか。

思っけて返せば、わたくしは、人を必要とした事があるのではっけようか。

勿論、人は独りでは生きてゆっけないのだから、

あるでっけよう。

だけど、本当にこの人が必要だと、失ったら生きてゆけないと思う程、必要とした事があるのでしようか。

愛は、力強く美しく絶対的だと思うのに、現実には脆弱で醜く移ろう事だつてあるのです。

過去には、必要とした事が確かにあつた。

幼すぎて、共依存の様に求め合い壊しあつてしまった。

わたくしは、人を必要とする事が、怖い。

喜びより強い不安が、身体を支配すると知ってる。

頼る事が怖い。独りで歩けなくなつてしまいそうで。

心の何処かに、全く成長のしない子供の心が在るのです。

親ですら、子を棄てたりするのです。

わたくしは、今、隻眼、そう思います。

両の眼の内の一つを、すでに潰してしまつて居るのです。

もう片方を、潰す事になつてしまつたら、一生闇しか見えません。

人は必ず立ち直り強く生きてゆくものだと信じれば、

もつと我俣に強く生きてゆける気がします。

だけど、現実には酷く負けてしまう人だつて居る。

多くの心壊した人達や、死んでしまった人たちや、

心を棄ててしまった人たちや、復讐に生きる人たちや。

貴方は弱い。

貴方と恋人関係を解消するだけでなく、

本当に決別する日は、まだ先になるのでしょうか。

わたくしは殊勝な性格ではありませんから、

自分に都合の良い未来を創る為に、考えています。

条件は一つ、貴方が独りで生きてゆけるようになる事。

子を残して死ぬ親の気分です。

貴方は、わたくしの子供だと、

その位には大事に想っているのです。

毎日迷い、途方に暮れる。

貴方の為に、この一生を使ってしまっても良いと思う気持ちと、そうではない気持ち。

寄る辺無い気持ち、胸を押し潰すのです。

貴方を選んだ時もその前も、その前も、その前も、ずっとわたくしは男の人を棄ててきました。

新しい恋に狂い、情を置き去りに人を傷付けて来ました。

だけど、貴方だけは、そういう風に棄ててしまいたくないのです。だから恋はしません。貴方との全ての絆が切れるまで。

万が一しても、誰にも何も言いません。

大丈夫。滅多やたらに恋をしたりする性格じゃありません。

傷を最小限に留めようとする事は、愚かでしょうか。

その事が、事態をもっと悪くするでしょうか。

例えば悪人を演じ、貴方に嫌われてみましようか。

だけど、嫌われるように振舞うと言うのは、

貴方の愛情をナメてなければ出来ません。

それでもどうしても愛してる、諦められないと言われたら？

わたくしの演じる最低な裏切りに、

人を愛せなくなってしまうたら？

わたくしだったら、諦められないし、それでも愛してると言う。

最低な裏切りをされれば、人と関わる事を拒絶すると思うのです。

結果わたくしの選ぶ選択肢は、

貴方がわたくしを愛さなくなるまで傍に居る事でしょうか。

「そんな事言ったら、一生居なきゃならなくなるよ」と

貴方は言うのでしょうか。

時折、何もかも投げ出して、逃げてしまいたくなります。ただ。

わたくしが貴方に抱くこの感情は何なのでしょう。

恋愛感情は無くとも、

きつと、その正体は一種の愛ではあるのでしょうか。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3097i/>

その正体

2011年2月1日04時48分発行